

学

校、保護者、教育委員会 みんなで取り組む

ネットモラル

進級、進学を期に、もう一度情報モラルについて考えてみましょう。
そこで今回は、長年情報モラルの指導に携わってきた八戸市教育委員会の石井一二三先生に、保護者がすべきことについて教えていただきました。



八戸市教育委員会 総合教育センター
主任指導主事 石井一二三 先生

学校での情報モラル指導 に保護者も参加しよう

情報モラルの指導は、学校、保護者、教育委員会、この三者が力を合わせて取り組むことが大事です。

たとえば八戸市の学校では、授業参観日に情報モラルの授業を行ったり、親子でいっしょに学ぶ「親子情報モラル教室」や、全校児童と保護者と教員がいっしょに学ぶ「学校保健委員会」など、保護者の方に情報モラルについて考えてもらう場をたくさん設けたりしています。そして教育委員会は、授業で使う情報モラル教材を整備したり、情報モラルの授業の仕方を教員が学ぶ研修を行ったりしています。

保護者も学校が提供する情報モラルについて学ぶ場に参加し、家庭での指導に活かしていただきたいと思います。

Q 学校で指導するだけでは 不十分？

子どもたちがスマホやゲーム機を使うのは、家に帰ってからです。家での様子を見守り、指導できるのは保護者だけです。それに少し厳しい言い方ですが、スマホやゲーム機を持たせたのは保護者です。よね、持たせた以上、正しい使い方を教える責任があると思います。

Q ニュースやネットで情報モラルについて 知るだけでは不十分？

情報モラル指導の課題は、地域や学校によって異なりますし、それこそ学級によっても違います。だから学校では、子どもの実態に合った授業や指導を行っています。その様子を参観したり、子どもといっしょに学んだりすることで、ニュースではわからない自分の子どもの実態や課題を把握することができます。

Q 学校で子どもといっしょに学ぶと、 どんな良さがある？

情報モラルの授業を参観すると、保護者は子どもたちの生の声に驚きます。「スマホやネットは使い方を誤ると危険なこともある」「安全に使うにはどうすればいいだろう？」と子どもたちが発言するのを聞いて、「子どもなりに考えているんだ」と、みなさん感銘を受けます。

また、保護者同士で連携する場にもなります。「携帯電話はいつから持たせる？」と情報交換したり、「SNSの使い方について、みなどう指導してる？」と相談したりできます。

そしてなにより、家に帰ってから情報モラルについて子どもと話し合うきっかけになります。授業で学んだことや子どもの発言を振り返りながら、親子でいっしょに正しい使い方を考えてください。

Q 家庭ではまず 何をすればいい？

まずはルールを決めましょう。「一日一時間まで」「使う時はリビングで」など、子どもと話し合い、両者が納得できて、実行可能なルールを決めましょう。

ルールは、スマホを持たせる前に決めておきましょう。守れなかったらどうするかを決めるのも忘れずに。子どもの成長や必要となる機能に合わせて、ルールを見直していくのも大切です。

ちなみにこういったルール作りのポイントも、学校で子どもといっしょに学べます。

Q ルールを決めた後、 普段はどんな指導をすればいい？

「今何やってるの？」と声をかけましょう。どんな使い方をしているか常日頃から見守っていれば、危ない使い方をしようとしているのを止められるかもしれませんし、親に見守られていると意識することで自制心も働きます。

Q インスタグラムやYouTubeなどで、 顔が映った画像を 投稿する風潮がありますが、 どう指導すればいい？

「今の振る舞いが五年後、十年後の自分を苦しめる」と、子どもに伝えましょう。インターネットの世界は、一度画像や動画をアップしたら、絶対に回収は不可能です。フォロワーや「いいね」欲しさに軽い気持ちで投稿すると、未来の自分を苦しめることがあると教えてあげれば、子どもたちは投稿する前に一度ブレーキをかけて自問自答できるようになります。

Q スマホやネットは子どもの方が詳しく、 技術的な話についていけません。

技術的なことは、専門家に頼りましょう。携帯ショップなどに問い合わせてもいいですし、学校でも専門家が作った教材を使って授業をしています。

そもそも保護者がすべきなのは技術的な指導ではなく、「現実の世界でやってはいけないことは、ネットの世界でもダメ」というスタンスで、現実の世界にも通じるルールやマナーを指導することです。そして親として子どもの相談にのり、正しい使い方ができるように導いてあげることです。

そういう意味では、情報モラル指導は子育ての一つです。学校、教育委員会と協力して、子どもたちを育てていきましょう。

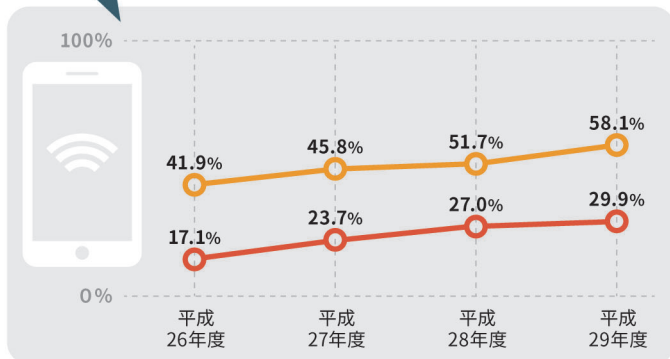
ネットの危険から子どもを守るために

保護者のみなさまへ

内閣府の「平成29年度青少年のインターネット利用実態調査」（平成30年2月）によると、平成29年時点で小学生のスマホ所持率は29.9%、ネット利用率は65.4%、中学生になると、スマホ所持率は58.1%、ネット利用率は85.2%と年々右肩上がりです。

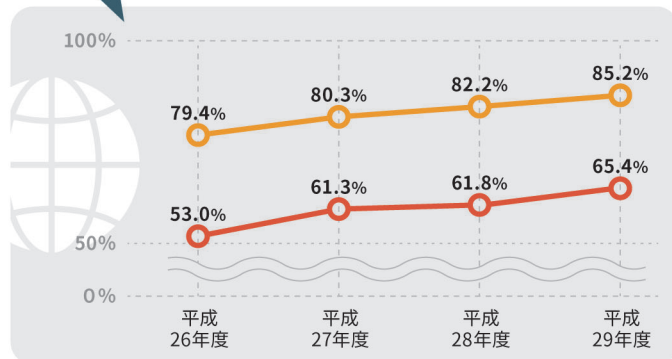
スマホ所持率

○・・・中学生
●・・・小学生



インターネット利用率

○・・・中学生
●・・・小学生



「平成29年度青少年のインターネット利用実態調査」（内閣府）より作成

スマホ・ネットに関する保護者の心配事

① 依存傾向

YouTube

多くの小学生が、テレビよりYouTubeを好んで、よく見ています。ユーチューバーはあこがれの職業です。



！ その他の脅威

【エルサゲート】子ども向けと見せかけて、子どもがショックを受けるような不適切な動画のことをエルサゲートといいます。一度エルサゲートを見ると、関連動画として似たような動画が候補としてリストアップされ、エルサゲートを見続けてしまう、ということにもなりかねません。

② 個人情報流出や炎上

TikTok

現在（2019年2月時点）でのTikTokの利用規約では「13歳以上の方が利用できる」ことになっていますが、実際は多くの小学生が利用しており、小学生の人気TikTokerもいます。



顔を隠さず、住所や学校など、個人情報のやりとりをしていることもあります。

③ 出会い系・児童ポルノ被害

SNS

TwitterなどのSNSで知り合い、仲良くなった他ユーザーと、一対一で交流しはじめると、出会い系被害に巻き込まれる子どもが増えてきます。裸や下着の写真を送らされて悪用される自撮り被害もあります。



だれにも相談できず、ひとりで悩むことになってしまいます。

まとめ

- ① スマホやネットには上記のようなリスクがあることを教えましょう。
- ② 親子で話し合っ、一緒にスマホやネットを使うときのルールを決めましょう。

もはや、インターネットなしでは生活できなくなっています。大人も子どもと一緒に勉強しながら、安心・安全にスマホやネットを使いましょう。